

<きく> センチュウ類(ハガレセンチュウを除く)

1. ネグサレセンチュウが寄生すると根に褐斑ができ、根がぼろぼろに腐る。多発すると慢性的な生育不良となり、大雨時の湿害を助長する等連作障害の主要因となる。
2. マリーゴールドの作付はネグサレセンチュウに効果がある。効果は、根に殺線虫物質が含まれているため侵入した線虫が死滅することによると考えられている。
3. マリーゴールドは種類により効果に差があり、フレンチ種（プチスプレーキングタット、ブライニーダンディマリエッタ、プチエロー等）の効果が高い。また、アフリカン種でもアフリカントール、スパンゴールド、エローフルフライは有効である。
4. マリーゴールドの栽培時期は夏ギクでは6月～8月、秋ギクでは3月下旬～6月、又はキクを一作休んで4月～8月、9月とする。キクとの混作は競合が激しいので避ける。
5. マリーゴールドの作付は、畦間20～30cmのすじまき（種子量約4g/10a）又は点ばとするか移植とする。栽植後には地上部を刈り取り、すき込むか堆肥として利用する。
6. ダゾメット剤の施用に際しては、ハウスを密閉し、地温を30℃以上（地下15cmまで）にすると効果が高い。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は植付前	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和す 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和す 圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は植付前	1回	
ディ・トラパックス油剤	I:8A・I:8F	は種又は植付の21日前まで	1回	

<きく> ネコブセンチュウ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ネマキック粒剤	I:1B	植付前又は定植前	1回	全面土壌混和 1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
DC油剤	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	
D-D	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
テロン	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
クロピクフロー	I:8B		1回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
キルパー ※1	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。

ガスタード微粒剤 ※1	I:8F	は種又は植付前	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤 ※1	I:8F	は種又は植付前	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

<きく> ネグサレセンチュウ

1. ネグサレセンチュウが寄生すると根に褐斑ができ、根がぼろぼろに腐る。多発すると慢性的な生育不良となり、大雨時の湿害を助長する等連作障害の主要因となる。
2. マリーゴールドの作付はネグサレセンチュウに効果がある。効果は、根に殺線虫物質が含まれているため侵入した線虫が死滅することによると考えられている。
3. マリーゴールドは種類により効果に差があり、フレンチ種（プチスプレーキングタット、プライニーダンディマリエッタ、プチエロー等）の効果が高い。また、アフリカン種でもアフリカントール、スパンゴールド、エローフルフライは有効である。
4. マリーゴールドの栽培時期は夏ギクでは6月～8月、秋ギクでは3月下旬～6月、又はキクを一作休んで4月～8、9月とする。キクとの混作は競合が激しいので避ける。
5. マリーゴールドの作付は、畦間20～30cmのすじまき（種子量約4 $\frac{1}{2}$ g/10a）又は点ばとするか移植とする。栽植後には地上部を刈り取り、すき込むか堆肥として利用する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ネマキック粒剤	I:1B	植付前又は定植前	1回	全面土壌混和
ネマトリンエース粒剤	I:1B	定植前	1回	全面土壌混和
DC油剤	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
D-D	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
テロン	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
クロピクフロー	I:8B		1回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
キルパー ※1	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

<きく> ハガレセンチュウ

1. 夏ギクの萎縮症状の原因はハガレセンチュウ類の加害によるものである。
2. 発病ほ場からさし芽をとらない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガードホープ液剤	I:1B	生育期	2回以内	土壌灌注

<きく> ハダニ類

1. 発生初期に徹底した防除を行う。
2. 薬剤抵抗性の対策として、同一薬剤の連用を避ける。
3. ハダニ類はナミハダニ（赤色型）、ナミハダニ、カンザワハダニなどが寄生する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カネマイトフロアブル	I:20B	-	1回	散布
コテツフロアブル	I:13	発生初期	2回以内	散布
コロマイト水和剤	I:6	発生初期	2回以内	散布
サンヨール	F:M01(M)	発生初期	8回以内	散布
スターマイトフロアブル	I:25A	発生初期	1回	散布
テルスタージェット ※1	I:3A	発生初期	3回以内	くん煙
サンクリスタル乳剤 ※1	-	-	-	散布
ニッソラン水和剤 ※1	I:10A	-	2回以内	散布
エコピタ液剤 ※1	-	発生初期	-	散布
ダニオーテフロアブル ※1	I:33	発生初期	2回以内	散布
ダニコングフロアブル ※1	I:25B	発生初期	1回	散布
ダニサラバフロアブル ※1	I:25A	発生初期	2回以内	散布
ダニトロンフロアブル ※1	I:21A	発生初期	1回	散布
ダブルシューターSE ※1	I:5・-	発生初期	2回以内	散布
パロックフロアブル ※1	I:10B	発生初期	1回	散布
粘着くん液剤 ※1	-	発生初期	-	散布
アグリメック ※2	I:6	発生初期	5回以内	散布
スパイカルプラス ※3	-	発生初期	-	放飼
チリガブリ ※3	-	発生初期	-	放飼
ペンタック水和剤 ※4	I:2A	-	-	散布

- ※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤  
 ※2 上位作物群「花き類・観葉植物(ガーベラを除く)」の登録薬剤  
 ※3 上位作物群「花き類・観葉植物(施設栽培)」の登録薬剤  
 ※4 上位作物群「花き類・観葉植物(施設栽培、ただし、カーネーション、ばらを除く)」の登録薬剤

<きく> ナミハダニ

1. マイトコーネフロアブルはナミハダニでのみ登録がある。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マイトコーネフロアブル	I:20D	開花前まで	1回	散布

<きく> アザミウマ類

1. ほ場内外の雑草を除去する。
2. 発生ほ場では収穫後、不要な株は速やかに処分する。
3. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置する。
4. ハチハチ乳剤は赤花系には出蕾期以降使用しない（薬害）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アドマイヤー1粒剤	I:4A	生育期	5回以内	散布
アフーム乳剤	I:6	発生初期	5回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	発生初期	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	発生初期	4回以内	散布
トクチオン乳剤	I:1B	発生初期	5回以内	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	発生初期	4回以内	散布
オルトラン粒剤	I:1B	発生初期	5回以内	株元散布
プリンス粒剤	I:2B	定植前	1回	植溝土壌混和
スミチオン乳剤 ※1	I:1B	-	6回以内	散布
アフーム乳剤 ※1	I:6	発生初期	5回以内	散布
オルトラン水和剤 ※1	I:1B	発生初期	5回以内	散布
ダブルシューターSE ※1	I:5・-	発生初期	2回以内	散布
ハチハチフロアブル ※1	I:21A/F:39(C1)	発生初期	4回以内	散布
マラソン乳剤 ※1	I:1B	発生初期	6回以内	散布
アグリメック ※2	I:6	発生初期	5回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤 ※3	I:4A	発生初期	5回以内	散布
ディアナSC ※4	I:5	発生初期	2回以内	散布

- ※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤  
 ※2 上位作物群「花き類・観葉植物(ガーベラを除く)」の登録薬剤  
 ※3 上位作物群「花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く)」の登録薬剤  
 ※4 上位作物群「花き類・観葉植物(りんどうを除く)」の登録薬剤

<きく> ミカンキイロアザミウマ

1. 育苗期～定植初期に株全体に発生が多くなる。また、花にも発生するので、開花前の防除を徹底する。花の被害は特に9月中～下旬に多い。
2. 切花後の株は、発生源になるので直ちに抜根して枯らす。
3. 親株ほ場は、栽培ほ場と隔離する。
4. 親株の新芽や葉で越冬するので冬期間も防除を行うほか、施設やほ場周辺の除草を行う。
5. 施設栽培では出入り口や側窓部に防虫網を張り、侵入を防ぐ（物理的防除法。防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照）。
6. ミカンキイロアザミウマは、えそ病を媒介する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	発生初期	6回以内	散布
カスケード乳剤	I:15	発生初期	3回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	発生初期	2回以内	散布

<きく> ミナキイロアザミウマ

1. 親株での防除を徹底して苗床から虫の持込みを防ぐ。
2. 品種によって被害の出方に差がある（名門、秀芳の力、秀芳の鏡、寒来、大門、晩生の力などに被害がやすい）。
3. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置する。
4. オンコル粒剤5は8～9月定植のハウス栽培では効果が高い。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コテツフロアブル	I:13	発生初期	2回以内	散布 植溝土壌混和又は株元散布
オンコル粒剤5	I:1A	定植時	1回	
オンコル粒剤5	I:1A	生育期	3回以内	散布 植溝土壌混和又は株元散布

#### <きく> アブラムシ類

1. アブラムシ類はウイルス病を媒介するので早期に防除する。
2. ハチハチ乳剤は赤花系には出蕾期以降使用しない（葉害）。
3. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	発生初期	5回以内	散布
ウララ50DF	I:29	発生初期	6回以内	散布
オレート液剤	H:0	発生初期～収穫前日ま	-	散布
サンヨール	F:M01(M)	発生初期	8回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	発生初期	5回以内	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	発生初期	4回以内	散布
オルトラン粒剤	I:1B	発生初期	5回以内	株元散布
ダントツ粒剤	I:4A	発生初期	4回以内	生育期株元散布
ベストガード粒剤	I:4A	発生初期	4回以内	生育期株元散布
アクタラ粒剤5 ※1	I:4A	生育期	1回	株元散布
エコピタ液剤 ※1	-	発生初期	-	散布
オルトラン水和剤 ※1	I:1B	発生初期	5回以内	散布
ダントツ水溶剤 ※1	I:4A	発生初期	4回以内	散布
チェス顆粒水和剤 ※1	I:9B	発生初期	4回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤 ※2	I:4A	発生初期	5回以内	散布
コルト顆粒水和剤 ※3	I:9B	発生初期	4回以内	散布
モスピランジェット ※4	I:4A	発生初期	5回以内	くん煙
アディオソ乳剤 ※5	I:3A	発生初期	6回以内	散布
スカウトフロアブル ※6	I:3A	-	5回以内	散布

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

※2 上位作物群「花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く)」の登録薬剤

※3 上位作物群「花き類・観葉植物(チューリップ、ばらを除く)」の登録薬剤

※4 上位作物群「花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く)」の登録薬剤

※5 上位作物群「花き類・観葉植物(はばたんを除く)」の登録薬剤

※6 上位作物群「花き類・観葉植物(宿根かすみそう、グラジオラス、トルコギキョウ、りんどうを除く)」の登録薬剤

#### <きく> コナジラミ類

1. ほ場内外の雑草を除去する。
2. 発生ほ場では収穫後、不要な株は速やかに処分する。
3. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	発生初期	5回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	発生初期	5回以内	散布
ベストガード水溶剤	I:4A	発生初期	4回以内	散布
アルバリン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和

#### <きく> カメムシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	発生初期	5回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	発生初期	5回以内	散布

#### <きく> アワダチソウガンバイ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コテツフロアブル	I:13	発生初期	2回以内	散布

#### <きく> ハモグリバエ類

1. キクには数種が寄生するが、主要種はマメハモグリバエである。その他、ナモグリバエ、キクハモグリバエが寄生す
2. 薬剤抵抗性対策として、他剤とのローテーション散布を行う。
3. 広食性であり雑草は重要な発生源になるので常に除草を行う。
4. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コロマイト乳剤	I:6	-	2回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	発生初期	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	発生初期	4回以内	散布
オルトラン粒剤	I:1B	発生初期	5回以内	株元散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	発生初期	5回以内	灌注
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	発生初期	5回以内	灌注
アフアム乳剤 ※1	I:6	発生初期	5回以内	散布
ディアナSC ※2	I:5	発生初期	2回以内	散布
アクタラ顆粒水溶剤 ※3	I:4A	発生初期	6回以内	散布

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

※2 上位作物群「花き類・観葉植物(りんどうを除く)」の登録薬剤

※3 上位作物群「花き類・観葉植物(宿根アスター、トルコキキョウ、きくを除く)」の登録薬剤

＜きく＞ マメハモグリバエ

1. キクには数種が寄生するが、主要種はマメハモグリバエである。その他、ナモグリバエ、キクハモグリバエが寄生す
2. 薬剤抵抗性対策として、他剤とのローテーション散布を行う。
3. 広食性であり雑草は重要な発生源になるので常に除草を行う。
4. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オルトラン水和剤	I:1B	発生初期	5回以内	散布
カスケード乳剤	I:15	発生初期	3回以内	散布
カルホス乳剤	I:1B	発生初期	4回以内	散布
ダントツ粒剤	I:4A	発生初期	4回以内	生育期株元散布
ベストガード粒剤	I:4A	発生初期	4回以内	生育期株元散布
アルバリン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
トリガード液剤 ※1	I:17	発生初期	4回以内	散布

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

＜きく＞ ヨトウシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オルトラン粒剤	I:1B	発生初期	5回以内	株元散布
アフーム乳剤 ※1	I:6	発生初期	5回以内	散布
オルトラン水和剤 ※1	I:1B	発生初期	5回以内	散布
ノーモルト乳剤 ※1	I:15	発生初期	2回以内	散布
アディオソ乳剤 ※2	I:3A	発生初期	6回以内	散布

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

※2 上位作物群「花き類・観葉植物(はばたんを除く)」の登録薬剤

＜きく＞ ハスモンヨトウ

1. 発生の多い年は薬剤散布を8～9月に5～7日おきに定期的に行う。
2. 幼虫の侵入を防ぐため、畑の周囲に塩ビ板ビニルなどで遮断用の壁をつくる。
3. 侵入してきた大きい幼虫は捕殺する。
4. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アニキ乳剤	I:6	発生初期	6回以内	散布
グレーシア乳剤	I:30	発生初期	2回以内	散布
ゼンターリ顆粒水和剤	I:11A	発生初期	-	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	発生初期	4回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	発生初期	5回以内	散布
マトリックフロアブル	I:18	発生初期	4回以内	散布
プレオフロアブル ※1	I:UN	発生初期	4回以内	散布
ヨーバルフロアブル ※1	I:28	発生初期	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル ※1	I:28	定植前日～定植当日	1回	灌注

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

＜きく＞ オオタバコガ

1. 若齢幼虫がキクの生長点付近を食害するので心止りとなり、被害が大きい。(通称キクのシンクイムシはこの虫であることが多い。このほかハマキ類、ヤガ類、ヨトウ類、メイガ類などがみられる。)
2. オオタバコガは7～10月、タバコガは7～8月に多発する。オオタバコガの方が薬剤抵抗性が発達している。
3. タバコガはホオズキ畑から飛来するものが多いので、ホオズキ畑での防除を徹底する。
4. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクセルフロアブル	I:22B	発生初期	6回以内	散布
アニキ乳剤	I:6	発生初期	6回以内	散布
エスマルクDF	I:11A	発生初期	-	散布
オルトラン水和剤	I:1B	発生初期	5回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	発生初期	2回以内	散布
デルフィン顆粒水和剤	I:11A	発生初期	-	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	発生初期	4回以内	散布
アフーム乳剤 ※1	I:6	発生初期	5回以内	散布
プレオフロアブル ※1	I:UN	発生初期	4回以内	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期	-	散布
ヨーバルフロアブル ※1	I:28	発生初期	3回以内	散布
ディアナSC ※2	I:5	発生初期	2回以内	散布

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

※2 上位作物群「花き類・観葉植物(りんどうを除く)」の登録薬剤

＜きく＞ うどんこ病

1. ハウス内では、発病が見られ始めたらできるだけ通風を良好にする。
2. 開花期には、花になるべく薬剤がかからないようにする。
3. 花き類・観葉植物のうどんこ病の項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフエットフロアブル	F:7(C2)	発病初期	3回以内	散布
カリグリーン	F:NC	発病初期	-	散布
サンヨール	F:M01(M)	発生初期	8回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	発病前～発病初期	6回以内	散布
ポリオキシンAL乳剤	F:19(H4)	発病初期	8回以内	散布

サンクリスタル乳剤 ※1	-	-	散布
パンチョTF顆粒水和剤 ※ F:3(G1)・F:U06(U)	-	2回以内	散布
エコピタ液剤 ※1	発病初期	-	散布
ポリオキシシAL水溶剤 ※ F:19(H4)	発病初期	8回以内	散布
ショウチノスケフロアブル ※1 F:9(D1)・F:U13(U)	発病前～発病初期	2回以内	散布
バチスター水和剤 ※1 F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	散布

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

#### <きく> 褐斑病

- 最終摘心直後に降雨日数が多い場合には、初期の散布時期を7日早めにする。
- ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種粒への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
サンヨール	F:M01(M)	発病初期	8回以内	散布
ストロビーフロアブル	F:11(C3)	発病初期	3回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	発病前～発病初期	6回以内	散布
トップジンMゾル	F:1(B1)	-	5回以内	散布
トップジンM水和剤	F:1(B1)	-	5回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	-	6回以内	散布

#### <きく> 黒斑病

- 最終摘心直後に降雨日数が多い場合には、初期の散布時期を7日早めにする。
- ステンレスは品種によっては薬害を生じることがあるので、新しい品種では小規模の試し散布を行う。
- ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種粒への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
サンヨール	F:M01(M)	発病初期	8回以内	散布
ストロビーフロアブル	F:11(C3)	発病初期	3回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	発病前～発病初期	6回以内	散布
トップジンMゾル	F:1(B1)	-	5回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	-	6回以内	散布

#### <きく> 根頭がんしゅ病

- 花き類・観葉植物の白絹病の項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤 ※1 I:8F	I:8F	は種又は植付前	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤 ※1 I:8F	I:8F	は種又は植付前	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

#### <きく> 白絹病

- 花き類・観葉植物の白絹病の項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クロールピクリン	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸

#### <きく> 白さび病

- ハウス栽培ではポリマルチすることによって、空気湿度が下がり発病が抑制される。
- FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
- DMI剤（トリフミン水和剤、ラリー乳剤、アンビルフロアブル、チルト乳剤25）は耐性菌が出現する恐れがあるので同一薬剤として扱い、連用しない。1作期3回以内とする。
- ラリー乳剤は、品種・環境により生育障害を生ずる場合がある。特に乾燥時は注意する。また、必ず単用で使用する。
- アンビルフロアブル、ステンレスは品種によっては薬害を生じることがあるので、新しい品種では小規模の試し散布を行う。
- ジマンダイセンフロアブルは、発病後では効果がやや低いので、発病初期に散布する。また、軟弱幼苗に極端な高温多湿条件下で散布すると、薬害を生じることがあるので注意する。
- ポリオキシシAL水溶剤は、着蕾期以降、高温時に散布すると薬害が生じることがあるので注意する。
- キクの挿し苗を温湯処理（48℃で30秒）することにより、罹病苗であっても本病の発生を抑制することができる（物理的防除法 19. 温湯処理によるキク白さび病の防除の項を参照）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフエットフロアブル	F:7(C2)	発病初期	3回以内	散布
アミスター20フロアブル	F:11(C3)	発病初期	5回以内	散布
アンビルフロアブル	F:3(G1)	発病初期	7回以内	散布
カリグリーン	F:NC	発病初期	-	散布
ジマンダイセンフロアブル	I:UN/F:M03(M)	-	8回以内	散布
ストロビーフロアブル	F:11(C3)	発病初期	3回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	発病前～発病初期	6回以内	散布
チルト乳剤25	F:3(G1)	発病初期	3回以内	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	発病初期	5回以内	散布
ピリカット乳剤	F:39(C1)	発病初期	6回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	-	6回以内	散布
ポリオキシシAL水溶剤	F:19(H4)	発病初期	8回以内	散布
ラリー乳剤	F:3(G1)	発病初期	5回以内	散布

<きく> 立枯病

1. 多湿になると発病が多くなる。また、湿害により根腐れをおこすので排水を良くする。
2. 発病の多いほ場では連作を避ける。
3. 花き類・観葉植物の立枯病の項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジオゼット水和剤	F:19(H4)	発病初期	8回以内	散布
クロールピクリン	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸

<きく> 灰色かび病

1. ハウス栽培では、室内が過湿にならないように十分に換気をはかる。
2. 花き類・観葉植物の灰色かび病の項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフエットフロアブル	F:7(C2)	発病初期	3回以内	散布
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	発病初期	8回以内	散布
サンヨール	F:M01(M)	発生初期	8回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	-	8回以内	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	発病初期	5回以内	散布

<きく> 半身萎凋病

1. 発病ほ場からさし芽はとらない。
2. 発病の多いほ場では連作を避ける。
3. 発病の多い地域では抵抗性品種を栽培する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クロビクテープ	I:8B		1回	土壌くん蒸
ダブルストッパー	I:8B I:8A	作付の10～15日前まで	1回	土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)
ソイリーン	I:8A I:8B	作付の10～15日前まで	1回	耕起整地後、30cm間隔のチリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
ディ・トラベックス油剤	I:8A・I:8F	は種又は植付の21日前まで	1回	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
クロールピクリン ※1	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
クロビク80 ※1	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
ドジョウピクリン ※1	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
ドロクロール ※1	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
ガスタード微粒剤 ※1	I:8F	は種又は植付前	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤 ※1	I:8F	は種又は植付前	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

※1 上位作物群「花き類・観葉植物」の登録薬剤

<きく(施設栽培)> アザミウマ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アドマイヤーフロアブル	I:4A	発生初期	5回以内	散布

<きく(施設栽培)> アブラムシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アドマイヤーフロアブル	I:4A	発生初期	5回以内	散布